

2024.4.15

Salone Internazionale del Mobile, S. Project, Workplace3.0 出展社・新作情報

4月16～21日、ロー・フィエラミラノ国際見本市会場で、最も権威ある国際的なデザインイベントが開催されます。イタリアや海外の優れた企業と出会い、暮らしの未来を発見する唯一の機会です。

ミラノサローネ国際家具見本市(以下、ミラノサローネ)では、回を重ねるに連れ、コミュニティ全体が集う流れが回帰していることを示しています。1年に渡る仕事、研究、実験の成果をその手で確かめ、その意味を確認する場です。ワークスペースのハイブリッドな特性を持つパビリオンには、環境、家具、オブジェ、インスタレーションが配置され、見本市という構造を魅惑的な架空世界へと変貌させます。そこには、アイデア、意味、形、機能の新たな層が垣間見られ、時にはまだ萌芽的でありながらも、明日の暮らしのアイデンティティを(時には気づかぬうちに、時にははっきりと)先取りすることができます。

暮らしのニーズや夢に対する解決策を提案するこの流域では、提案の持つあらゆる限界、しかし同時に、それが放つあらゆる美しさ、強さ、価値を以って、デザインと表現の言語の多様性を把握することができます。これらは、方法、アプローチ、ビジョン、そしてコンテンツを表します。様々な美的過程に形を与えるミクスチャーであり、決して見落とししたり、無視したりすることのできないものです。それどころか、環境や社会的責任、再生から、デジタル技術と巧みに融合した職人技の向上まで、強力なメッセージやビジョンが発信されることとなります。また、新たな建築技術や循環型素材を用い、再編集されたオブジェーこの場合の再編集とは、ただ単に市場に再導入することを示すのではなく、真正性やデザイン文化の物語から、例えば日本など、遠くからやってきた意味深いデザインの提案までを意味します。そしてまた、第三の空間の(再)確認ー内が外になるとき、あるいはその逆ー魅力的だがある意味では敵対的な領域であるファッションの侵入。必然的に形の計算は広がっていきます。彫刻的で建築的なものからソフトで有機的なものへ、装飾主義から本質的で軽やかなサインへ、流動性からカスタマイズの探求、あるいは別の方向では機能性へと。形、素材、機能のこのような多元的な宇宙から、ミラノサローネのエネルギーが再び私たちを方向づけるのです。

【サステナビリティから再生へ(そして明日はエシカルへ)】

今日、サステナビリティについて語ることは、当然のことであり、少なくとも既視感を覚えるでしょう。美的感覚、製品の内容や体験、あるいは技術や生産プロセスへのこだわりだけではもはや十分でないとしたら、「次のステップ」は何でしょうか？おそらくエシカル(倫理)、つまり環境問題だけでなく、公平、正義、価値、インクルージョンといった社会的側面をも包含するビジョンでしょう。多くのデザイナー

ーが既にこれらの概念を受け入れており、幸いなことに、新しい世代は、専門職の基礎と共に、学校でそれらの概念を学んでいます。企業は、いつそれを実行に移すのでしょうか？ミラノサローネでは、既に多くのブランドが、境界線を打ち破り、越えようとしています。

•**Kartell(カルテル)/「A.I.」** ホール 22 | スタンド A11 B10 B15 C12 C18

カルテルとフィリップ・スタルクによるコレクション「A.I.」のデザインは人間と人工知能とのコラボレーション。ブランドの研究と技術開発により、再生可能で環境に悪影響を及ぼさない素材が使用されています。同コレクション最新作の A.I.Lounge (A.I.ラウンジ)は、持続可能な素材と快適な座り心地を兼ね備え、未来と幸福を見据えたグラフィック・サインが特徴です。

•**Pedrali(ペドラリ)/ Héra(ヘラ)**

Patrick Jouin(パトリック・ジュアン)によるデザインで、米国 FSC 認証のタモ材またはアメリカンウォールナット材を使用した Héra(ヘラ)シリーズに、セルロースをメッシュ織にした座面を採用した新バージョンが加わりました。環境に対するブランドの配慮は、認証木材の選択、水性塗料や植物由来の樹脂などの仕上げを通じて受け継がれています。

•**Nardi (ナルディ)/MAXIMO(マキシモ)**ホール 18 | スタンド D23 E22

Raffaello Galotto(ラファエロ・ガリオット)の鉛筆から生まれたモジュラーソファ。構造部に再生樹脂を、張り地にリサイクル率の高い原料を用いたファブリックを使用。すっきりとしたバランスの取れたラインは水平に伸び、ボリュームに富み、座面は深く快適です。モジュール構造はフレキシブルで調和がとれています。クッションの生地も一部再生樹脂を使用しており、ゆったりと快適なサイズ。このコレクションには、テーブルと再生プラスチック製小物ホルダーもあります。

•**Pianca(ピアンカ)/Orizzonte(オリゾンテ)**ホール 15 | スタンド A23 A25

ブランド初の、実験的素材とスタイリッシュな解決策を試みたキッチン。彫刻的で軽やかな本質を備え、機能性と美学が共存する空間を形作ります。持続可能な素材は天然石と、ヴェネツィアのテラスを彷彿させる加工大理石素材で、大理石の加工廃材を回収して作られます。

•**cc-tapis (cc タピス)/GRAND TOUR(グラン・ツアー)**

インドの社会的遺産と伝統を尊重した手織り絨毯の新しいカタログ GRAND TOUR(グラン・ツアー)を提案する。天然資源や文化的慣習の影響を受けた現地の織物職人の技を学び、Universo Uchronia(ユニヴェルソ・ウクロニア), Patricia Urquiola(パトリシア・ウルキオラ), Charles-Antoine Chappuis(シャルル・アントワーヌ・シャピュイ), India Mahdavi(インディア・マダヴィ), Doshi Levien(ドーシ・レヴィアン), Mae Engelgeer(メー・エンゲルギア), Clara Von Zweigbergk(クララ・フォン・ツヴァイベルク), Chiara Andreotti(キアラ・アンドレアッティ), Yabu Pushelberg(ヤブ・プッシュェルバーグ)のデザインを通して再提案します。

•Verdi (ヴェルディ) ホール 24 | スタンド H05)

自然を尊重する新世代の素材を使用し、職人的な工程を経て作られた屋外スペース用のカーペット・コレクションを発表。湿気や間接日光に強く、自然の風景にインスパイアされたニュアンスを身にまといまます。

•Mindo(ミンド)/Layers(レイヤーズ) ホール 14 | スタンド B35

Thomas E. Alken (トーマス・E・アルケン) がデザインした Layers (レイヤーズ) コレクションは、ラグジュアリーと持続可能性の融合というブランドのこだわりを物語ります。レイヤーズ・アウトドア・ソファは耐久性に優れ、必要に応じて各部品を交換できるように設計。部品は高品質で耐候性があり、リサイクルが可能です。使用されている Olyna (オリナ) ヤーンは、テクニカル素材でありながらウールに似た手触りで、屋外での耐久性、防汚性に優れています。

•Radici(ラディチ)/Sipario(シパリオ)

持続可能なプリント柄 Sipario (シパリオ) を発表。このプリント柄を裏からサポートする裏地には、漁網、カーペット床材、布地、プラスチック生産廃棄物などの産業廃棄物から再生された Econyl (エコニール) というナイロン糸を使用した同社の Bloom (ブルーム) 繊維の素材が使われています。100% 廃棄物から作られた原料は、新たな命を得て、環境にプラスの影響を与えることを目的とした革新的な繊維に生まれ変わります。

•Caimi(カイミ)/Biosfera(ビオスフェラ) ホール 22 | スタンド C23 D20

「サローネサテリテ 2023」で見出された台湾の若手デザイナー、シャン・ハン・シューとのコラボレーションから生まれたリサイクル可能な吸音素材 Biosfera (ビオスフェラ) を発表。自然のエレメントを想起させるデザインと吸音素材が融合し、真の心理的・身体的ウェルビーイングを促進します。

•Florim(フローリム)/Carbon Zero(カーボン・ゼロ)

「カーボン・ゼロ」コレクションは、カーボンニュートラルのサーフェスに関するプロジェクトで、その生産とライフサイクルで発生する CO2 排出を補償するものです。同ブランドは、原材料の採取から廃棄に至るまで、製品のライフサイクル全体を通して環境への影響を測定し、事業による排出を抑制するため、天然資源の使用を削減し、水、電力、生ゴミの回収など、100% 持続可能なプロセスを実現するために投資しています。超過した排出量は、発展途上国の再生可能エネルギー・プロジェクトから認証された炭素クレジットを購入することで相殺します。

【モダン・キャビネット】

伝統に則った木工は、美とウェルメイドの味わいを併せ持つ芸術です。今日、木は私たちの家で重要なスペースを占めるようになっていきます。象徴的に言えば、私たちは自然を家に迎え入れ、自然と

のつながりを取り戻し、文化的、生態学的、そして責任ある価値を持つ行為を行っているのです。私たちも企業も、それを感じています。

•Zanat(ザナート)/GENKAN(ゲンカン) ホール 24 |スタンド L02 L04

何世紀にも渡って受け継がれてきた彫刻の伝統とテクノロジーを融合させ、手仕事の限界に挑戦するボスニアの Zanat(ザナート)は、深澤直人がデザインした GENKAN(ゲンカン)コレクションを発表。コンソールテーブル、ミラー、小物入れなど、玄関用にデザインされたこのコレクションは、すべて木製。家具に施された彫刻は、日常の儀式に温かみと触感を加え、深みと美しさを与えています。質の高いクラフツマンシップ、技術力、創造性を兼ね備えた、木に対する生来の情熱そのものなのです。

•Very Wood(ヴェリー・ウッド)/Livorno(リヴォルノ)ホール 09 |スタンド D11 E12

木に対する情熱は、Antonio De Marco(アントニオ・デ・マルコ)がデザインした Livorno(リヴォルノ)コレクションの特徴でもあります。デザイナーが自ら課した課題は、メイド・イン・イタリアの素晴らしさを体現するチェアを作ることでした。座面では、すべての要素の間にダイナミックな対話を生み出すことに焦点が当てられています。脚は同じ木の断面から作られ、座面は4本の均等な横木の上に載っています。特徴的なのは、丸い脚部の特殊な剥離加工で、フライス加工によって小さく平らな面が多数作られています。アッシュ材の自然に波打つ木目が、座面を包み込むわずかにカーブした背もたれに個性を加えます。

•Alpi(アルピ)/ ALPI Xilo Ice Frisé ホール 24 |スタンド H06

ALPI Xilo Ice Frisé は、トラ杓(波状に見える木目模様)のメープル材を忠実に再現した新木材。North Light(ノースライト)シリーズのひとつで、自然の完璧な力強さを表現し、カラースケールによって3種類の北方産木材の葉脈と色を再現しています。監修はピエロ・リッソーニ。

•Flexform(フレックスフォルム)/Lauren(ローレン) ホール 09 |スタンド E05 E11

Antonio Citterio(アントニオ・チッテリオ)がデザインした、折りたたみ式アームチェア Lauren(ローレン)は、伝統を現代的に再解釈し、イタリアのキャビネット製作にオマージュを捧げた作品です。構造部は無垢材を旋盤加工し手作業で仕上げ、メタル製のアームレスト、座面と背もたれは、エレガントな革張りになっています。

•Fratelli Boffi(フラテッリ・ボッフィ)/Archi(アルキ)

フラテッリ・ボッフィが提案する Archi(アルキ)は、ストレージミラノのデザインによるもので、全体がウォールナットのブライヤー材で象嵌された記念碑的なテーブルです。アーチや十字の丸天井といった古典的な建築様式と、家具製作における最も高貴な職人技の伝統との出会いから生まれました。アーチを描く6本の脚で構成されたベースは、天板を支える機能を果たすだけでなく、まさに過ぎ去った時代のムードを引用していると言えます。長方形の天板は、厳格さを備える幾何学的形状で、

ダークな熱処理を施したオーク材をハンマーで象嵌し、建築的な台座のデザインを二次元的に再現しています。

•**more /OSO(オソ) ホール 11 | スタンド D18 D20**

ヨーロッパの持続可能な森林、多くの場合は同じ州内の森から産出された無垢材のみを使用し、ニスや塗料を塗ることなく、天然原料から採取した硬質ワックスオイルで処理されています。オイルは、ほのかな光沢を与え、構造を強調し、木材を保護するもので、完全に密閉するものではありません。すなわち素材は呼吸し、生き続け、本物の特徴を保ち、年を経るごとに美しくなるのです。ミラノサローネでは、無垢のアッシュ材を用い森の王者である熊からインスピレーションを得て、Peter Fehrentz (ピーター・フェレンツ) がデザインした OSO (オソ) を発表します。

•**Paolo Castelli(パオロ・カステッリ)/Giano(ジャーノ) ホール 9 | スタンド H02 H06**

古代の二つの顔を持つ神の神話に着想を得た Giano (ジャーノ) チェアを発表します。クラシックな木製の座面、後脚は背もたれに向かって伸び、双子の要素を加えています。木製の構造部は、ウォールナット色または黒に染色されたアッシュ材。ディテールには真鍮があしらわれています。

【日本の地平線】

軽快な感覚と風景との強い結びつきは、日本文化の典型です。それは、自然が共同の主人公として入り込む家庭内空間を観察するとよく理解できます。部屋のレイアウトは中央から外に向かって広がっていきませんが、それは決して完全に閉ざされ、くっきりと定義されたものではなく、外に向かって、庭に向かって開いています。日本のデザインは、本質的な形、シンプルな調度品、ユニークなまたは反復的なモジュールエレメント、中間色、すっきりとしたライン、自然素材を好みます。このような自然とのつながりや調和の感覚は、長い間、西洋のデザインを魅了してきました。

•**Porro(ポッロ)/Origata(オリガタ) ホール 11 | スタンド D15 E18**

記憶と革新、古風なフォルムと現代性をバランスよく融合させた、田村菜穂デザインの新作 Origata (オリガタ) ベンチを発表。一枚板のようなこのベンチは、平らな長方形の布を直線に沿って裁断し、無駄が出ないように縫製する「着物」の作り方から着想を得ています。その原理をベンチにも取り入れ、一枚のアルミ板をカットして組み立てることで、素材を最大限に活用しています。

•**Living Divani(リビング・ディヴァーニ)/Kasumi(カスミ)ホール 11 | スタンド C15 D16**

Mist-o(ミスト)がデザインしたアームチェア Kasumi (カスミ) を発表。カスミとは、日本語で、夜明けに霧や靄の中に光が差し込む現象を意味します。木製の構造部、数少ないパーツで構成されたすっきりとしたシルエットが、軽さと自然の感覚を伝え、製品に控えめながらも際立った個性を与えています。

•Gervasoni(ジエルヴァゾーニ)/Yaku(ヤク) ホール 09 |スタンド D11 E12

Gabriele e Oscar Buratti(ガブリエーレ・エ・オスカー・ブラッティ)がデザインした Yaku(ヤク)コレクションは、シンプルな要素を洗練された構成に結び付けるという日本の伝統にちなんだコンソールテーブルで展開されます。このコレクションは、木の本質を最も忠実に表現しています。机の要素、本質的な幾何学形が、エレガントで洗練された構成作品のように組み合わせられています。それらは3次元のシンメトリーな形を作って遊ぶ、東洋古来の接合ゲームを思い起こさせます。

•ADAL(アダル)/Look into Nature(ルック・イントウ・ネイチャー)、BOKU(ボク) ホール 14 |スタンド E41

日本人の精神に基づき、自然と調和した「家庭の風景」を創造することを生産哲学としている ADAL(アダル)。Look into Nature(ルック・イントウ・ネイチャー)コレクションは、Michael Geldmacher(ミヒャエル・ゲルトマッハ)がデザイン。日本で、伝統的に畳に使われる葦の一種「いぐさ」をメイン素材として用いています。いぐさの織り目は奥行きのある立体構造で、波のような起伏と光沢が特徴を持つフラットなモノクロームの表面を作り出します。それらを同じ色合いのオーク材やウォールナット材と組み合わせることで、ユニークな家具を生み出しています。既存のコレクションに加え、Stone Designs(ストーン・デザイン)の創始者 Cutu Mazuelos(クトウ・マスエロス)による、すっきりとしたミニマルなデザインが特徴的な「ボク」アームチェアが加わりました。

•Maruni(マルニ木工)/Lightwood(ライトウッド)、Shoto ホール 24 |スタンド D06

モジュール式ソファ Hiroshima(ヒロシマ)をアップデートし、深澤直人の新作オープンシェルフ、Jasper Morrison(ジャスパー・モリソン)のソファ Lightwood(ライトウッド)、Cecilie Manz(セシリエ・マンツ)の新作テーブルコレクション Shoto(シヨト)を発表します。

•Nagano Interior(ナガノインテリア)テーブル DT614 ホール 01 |スタンド D10

調和とバランスのフィロソフィー「和」にインスパイアされたリビングルーム用家具シリーズがデビューします。原材は、熟練した職人の手作業で生まれた様々な無垢材。その無垢材に、厳選したファブリックや上質な天然レザー、メタルやガラスの要素を組み合わせています。天然木の美しさ、流れるようなダイナミックなラインの調和、そして細部へのこだわりが、それぞれの作品をユニークで個性的なものにしています。コレクションのハイライトは、テーブル、チェア2脚、スモールアームチェア、多機能ツールです。さまざまな形とサイズで展開するテーブル DT614 は、薄い木製天板とモダンなスチール製の脚が組み合わせられています。

•Ritzwell(リッツウエル)/ Costantino(コスタンティーノ)ホール 09 |スタンド B01 B03

熟練した職人によるハンドメイドの仕上げとディテールで、クラシックなエレガンスをより現代的なビジョンで再解釈した Costantino(コスタンティーノ)を発表します。オークまたはウォールナットの無垢材

を使用した構造は、先が細くなった脚とやわらかな曲線のアームレストが特徴で、レザーや厚革のコントラスト仕上げが施されています。厚革バージョンにはハンドステッチが、レザーバージョンにはパイピング加工が施され、よりミニマルな仕上がりになっています。背もたれとシートは、強度の異なる素材を何層にも重ねたもので、人間工学に基づいた優れたサポート力を発揮し、長時間座っていても、ゆったりとくつろぐことができます。

・KARIMOKU CASE(カリモクケース)/CASE 07(ケース 07), CASE 10(ケース 10)ホール 24 | スタンド G05

KARIMOKU CASE(カリモクケース)は、デンマークの Norm Architects(ノーム・アーキテツ)のアートディレクションのもと、日本の建築家、芦沢啓治とのコラボレーションでコントラクトファニチャーを展開する日本のブランド。Norman Foster(ノーマン・フォスター)が CASE 07(ケース 07)のためにカスタムデザインした家具と、CASE 10(ケース 10)のためのケヤキ材を用いた新しい家具コレクションを発表します。温かい印象を醸し出すケヤキ材は、日本の空間では馴染みのある木材で、寺社建築や高級家具から小物にまで使われています。CASE10(ケース 10)のためにデザインされたダイニングチェアは、丸みを帯びた布張りのパーツと、軽快な印象を与える細身の木製構造が特徴。総革張りのソファは、丸みを帯びたシルエットが心地よく、ゆったりとした座り心地を提供します。

【ルーツの価値】

グローバル化と液状化社会の時代に、ルーツはどのような価値を持つのか? 「はかり知れない」とデザインは答えるでしょう。文化的で知的な過去の調度品の再提案は、並外れた文献学的注意をもって行われ、色彩とニュアンス、つながりと価値、バランスと差異の世界を示唆します。それゆえ、復刻再販は、私たちが祖先と結びつけ、起源、意味、そしておそらくは運命さえも回復させるものなのです。それは集団的な想像力と個人的な経験に根ざした家具であり、だからこそ、より識別しやすく安心感を与えてくれます。一般の人々は、その歴史的価値を評価するだけでなく、経済的価値も理解することができ、そのため、これらの品々はしばしば市場で最高のパフォーマンスを発揮するのです。もちろん、リエディション(再編集)とは、例えば、環境に対する新たな感受性を持つなどといった現代的な快適さを追求することでもあります。その歴史からスタートし、家具に自律的で現代的な生命を与える、現代的な鍵となる要素で表現していく必要があります。

・Gufam(グフラム)/ CACTUS®(カクタス)

Meritalia(メリタリア)/La Michetta(ラ・ミケッタ)

Memphis Milano(メンフィス・ミラノ)/Carlton(カールトン)、Bel Air(ベルエア)

ホール 24 | スタンド M10 M12

サローネでひとつのブースに、この3ブランドが初めて一堂に会します。3つの異なる環境が隣り合わせに重なり合い、来場者はその中で先鋭的なデザインの歴史をグローバルに眺めることができます。

Gufam(グフラム)は、Guido Drocco(グイド・ドロッコ)と Franco Mello(フランコ・メッロ)のアイコンピース「CACTUS®(カクタス)」を、1年間限定、計365個の新たな限定版「The Invisible Spectrum(ズィ・インヴィジブル・スペクトラム)」として発表。このコレクションは、光のスペクトルの中の特別な色、ウルトラバイオレット、ガンマブルー、そして赤外線にインスパイアされた3つの作品で構成されています。色彩に取り組むというアイデアは、ラディカルデザインの新たなコンセプトの象徴として、この作品の力を際立たせることを目的としています。そしてそれは、新鮮で現代的な視点をもって、アイコンを見る新しい方法でもあるのです。

創業以来、Meritalia(メリタリア)は、その本質的なポップ・モダニズムを特徴づけるリベラルな感覚に突き動かされてきました。安定性を批判し、異質性を賛美する知的スタンスだけでなく、日常的な欲望のオブジェを生み出す、楽しく支離滅裂な活力もその特徴です。今回のサローネでは、Gaetano Pesce(ガエターノ・ペッシェ)の La Michetta (ラ・ミケッタ) のリ・エディション版を発表。不規則な形、色、素材、水平か垂直か、座面か背もたれか肘掛けか、シングルかマルチかによって、座ったり寝転んだり好きな体勢が取れます。

創業から40年、メンフィス・ミラノはその歴史的アーカイブを丹念に充実させ、ミラノサローネにデビュー。Ettore Sottsass(エトトレ・ソットサス)による Carlton(カールトン)や Peter Shire(ピーター・シャイア)による Bel Air(ベルエア)など、オリジナルの美学を守りながら、重要な生産面をアップデートするという目的を追求し、綿密な技術的研究によって生産の近代化が図られました。

• Poltronova (ポルトロノーヴァ) ホール 24 | スタンド D01

ミラノサローネにハブを再現し、ハイパーポップなクリエイティビティを結集。Ettore Sottsass(エトトレ・ソットサス)の Ultrafragola(ウルトラフラゴラ)ミラー、Archizoom Associati(アルキズーム・アソチアーティ)による Safari(サファリ)、Superonda(スーパーオンダ)、Mies(ミエス)、Gianni Piretti(ジャンニ・ピレッティ)による Rumble(ランブル)ソファ、フランコ・ラッジによる Canton(カントン)ベンチなど、20点以上の展示品を形や色で想起させる環境に置き、視覚的かつパフォーマンス的な旅を展開します。

• Knoll (ノル) / Tugendhat (トゥーゲントハット) ホール 24 | スタンド D11 E12

Knoll(ノル)は、Ludwig Mies van der Rohe(ルートヴィヒ・ミース・ファン・デル・ローエ)がデザインしたアームチェア「トゥーゲントハット」を復刻します。エレガントなデザイン、優れた快適性、そして片持ち構造による多用途性を特徴とし、背もたれにはレザーストラップを使用しています。様々なファブリックやレザーでカスタマイズが可能で、住宅からコントラクトスペースまで幅広く対応します。

•Exteta(エクステータ) Locus Solus (ロクス・ソルス) ホール 11 | スタンド A 19 B20

Gae Aulenti(ガエ・アウレンティ)の Locus Solus (ロクス・ソルス)コレクションを Jacquemus (ジャックムス)と特別に再編集。ヴィンテージの魅力を備えた力強いラインを特徴とするポップなシリーズで、アウレンティの作品を長年敬愛し、彼女の椅子をこよなく愛するコレクターであるファッションデザイナー、Simon Porte Jacquemus (サイモン・ポート・ジャックムス)のコンテンポラリーなルックによって、ファブリックとカラーが一新された。

•Tacchini(タッキーニ)/ Additional System(アディショナル・システム)ホール 24 | スタンド C01 C03

Tacchini(タッキーニ)は、Joe Colombo(ジョエ・コロombo)のアーカイブスとコラボレーションし、アームチェア、オットマン、デイベッドのモジュール式システム Additional System(アディショナル・システム)の復刻版を発表。発表から 50 年を経た今もなお「未来的」な魅力を放ちます。1960 年代の人間工学に基づいた研究にインスパイアされた 6 種類のサイズのクッションは、数や配置を変えることで、ダイナミックでフレキシブルなコンビネーションを生み出します。

•Venini(ヴェニーニ)/ ホール 09 | スタンド L06 L08

Fulvio Bianconi(フルヴィオ・ビアンコーニ)と Paolo Venini(パオロ・ヴェニーニ)による Clessidre Sommerse(クレスシドレ・ソンメルセ)の再版を出展します。それらは、何層もの色を重ね合わせることで暗示的な色彩効果を生み出し、サブマージド・ガラスとインカルモの技法を融合させた熟練のガラス職人の技を物語るものです。その結果、過去と現在の間に宙吊りにされた世界の絶え間ない時の流れを物語る、時代を超越した宝物が誕生しました。

•Cantori(カントーリ)/Iseo(イゼオ) ホール 13 | スタンド C05

Daniel Rode Gallotti(ダニエル・ローデ・ガロッティ)によるベッド Iseo(イゼオ)の新エディションをサローネに出展します。構造部はサテン仕上げのリキッドピューター、ベッドフレームはブロンズ仕上げ、ヘッドボードは最高級のアニリンレザーを使用しています。他のカントーリ製品同様、ヘッドボードもベッドフレームもカスタマイズが可能です。

•Gallotti&Radice(ガロッティ&ラディチェ)/Bolle(ボツレ) ホール 09 | スタンド F09 G10

Massimo Castagna(マッシモ・カスターニャ)による Bolle(ボツレ)ランプを再販。その特徴的な球形のフォルムと柔らかく包み込むような光は、口で吹いた泡のような自然の幽玄さにインスパイアされています。Bolle(ボツレ)はブロンザイト、アンバー、アメジスト、トパーズの新しいシェードで照らされています。

•Vista Alegre (ヴィスタアレグレ) ホール 15 | スタンド B21 B23

「200年」をテーマに、異なる時代のさまざまな美的要素を組み合わせることで、ブランドの再生能力を表現。プレートコレクションは、起伏や溝を表現することで、ブランドの歴史的な歩みを反映しています。

【デザインとファッションの出会い】

ファッションシステムにおいてインテリア・デザインへの関心は高まる一方だ。ミラノでは多くのクリエイティブな出会いが待っているが、この二つの世界の繋がり、数十年前にさかのぼる。エルザ・スカパレリからトム・フォードまで、ミウッチャ・プラダからフセイン・チャラヤンまで、ビル・ゲイテン（ディオール）からヴィクター&ロルフまで、メゾン・マルタン・マルジェラからニコラ・ジェスキエール（ルイ・ヴィトン）まで。今日、多くのクリエイティブ・ディレクターがデザインとファッションの境界線を越え、新たな生活服をデザインし、そこからインスピレーションを得ている。

•Carpet Edition (カーペット・エディション)ホール 18 |スタンド D09

ファッションデザイナーKen Scott (ケン・スコット)のアイコンックな作品にインスパイアされた、タペストリーとカーペットのコレクションを発表します。ケン・スコットの作風は自由で、色彩に食欲、原始的で、まるで子供のように。またボエッティやウォーホルを彷彿とさせる要素もあり、彼の絵画のポップなテイスト(特に花の絵に顕著に見られます)は、陽気でウィットに富むタッチでカラフルに描かれています。カーペットコレクションは33点から成り、スコットの芸術的研究を際立たせてきた花柄、幾何学柄、アニマル柄の作品へのオマージュです。うち8点はカプセル・コレクションとしてデザインされ、花の形をしています。

•Jannelli&Volpi (ヤネッリ&ヴォルピ) /Wallcoverings Marimekko 07 (ウォール・カバーリング・マリメッコ 07)、Inspired Moods by Armani/Casa (インスパイアード・ムーズ・バイ・アルマーニ/カーザ)、Missoni Wallcoverings05 (ミッソーニ・ウォールカバーリングス 05) ホール 24 | E06 E08

Jannelli&Volpi (ヤネッリ&ヴォルピ)は、ファッション・ブランドとのコラボレーションによる3つのコレクションを発表します。Wallcoverings Marimekko 07 (ウォール・カバーリング・マリメッコ 07)は、新しいデザインと歴史的な柄の双方が、新たな印刷技術(光沢とマット仕上げ、シルバーとゴールド仕上げ、触感を復元する3Dインクなど)を導入して表現されています。Inspired Moods by Armani/Casa (インスパイアード・ムーズ・バイ・アルマーニ/カーザ)は、文学や詩からインスパイアされたテーマが、貴重な技術を駆使した壁紙に命を吹き込み、喚起的なイメージ、エキゾチックな回想、包み込むような雰囲気であらゆる部屋を彩ることができる大柄なデザインで表現されています。Missoni Wallcoverings05 (ミッソーニ・ウォールカバーリングス 05)は、ミッソーニ・ホーム・コレクションのクリエイティブ・ディレクター、Alberto Caliri (アルベルト・カリーリ)のキュレーションのもと、ブランドの典型的な色と柄に命を吹き込む壁紙が作られました。

•Jaipur Rugs(ジャイプール・ラグ)/Collezione Couture(コレッツィオーネ・クチュール)ホール 01 | スタンド C10 C12

ジャイプール・ラグの Collezione Couture(コレッツィオーネ・クチュール)は、シャネル傘下のイタリアのテキスタイルメーカ VIMAR1991(ヴィマール 1991)社とのコラボレーションから生まれました。シャネルが使用するオートクチュールの生地からインスピレーションを得て、伝統的な織物技術で再解釈したものです。この分野に直接乗り込んだファッション・ブランドの「ホーム」コレクションだといえるでしょう。

•Etro(エトロ)/ Quiltana(キルターナ) ホール 15 | スタンド A11

洗練されたキルティングで装飾された、柔らかく包み込むようなラインのアームチェア Quiltana(キルターナ)を発表。エトロのアーカイブからセレクトしたゴブラン織の花柄生地は、ヴィンテージの魅力を活かすパステルのカラーパレットが特徴です。

•Ferré (フェレ)/ Brygge(ブリッゲ) ホール 15 | スタンド B14

現代的なデザインと流れるようなラインが彫刻作品のような魅力を放つアームチェア、Brygge(ブリッゲ)を発表します。くつろぎたいという欲求に創造的に応えるモダンアート作品のように、シートは手の指を思わせる形が特徴的で、迎え入れ、揺り動かす準備ができているように見えます。

•Roberto Cavalli(ロベルト・カヴァッリ)/Toulou(トゥールルー)

ホール 15 | スタンド A19 B16

Roberto Cavalli(ロベルト・カヴァッリ)は、豊かなディテールと自然な心地よさが調和した、柔らかなラインのアームチェア Toulou(トゥールルー)を発表。ソフトで温かみのあるエコファー張りのシートは、ブランドのファッションコレクションのグラマラスなムードを体現しています。

•Turri(トゥーリ)/Atelier(アトリエ)ホール 13 | スタンド A09 B10

Turri(トゥーリ)は、イタリアの皮革製品とファッションからインスピレーションを受け、Matteo Nunziati(マッテオ・ヌンツィアーティ)がデザインしたソファ Atelier(アトリエ)を出展します。このソファは、イタリアのノウハウと大胆な実験的試みを物語るもので、レザーを差し込んで継いだディテールとファブリック張りが特徴です。広い座面が快適な座り心地を約束します。

【曲線へのオブセッション】

ミラノサローネのスタンドに足を運ぶと、「なぜ私たちはこれほどまでに曲線的なデザインが好きなのだろう？」と自問しますが、(神経)科学がその答えを教えてくれます。実際、私たちの脳がエッジや鋭すぎる線の硬さをどれほど嫌うかは科学的に証明されています。このような原始的な反発は、現代

のデザイナーたちにもよく伝わっており、自然界に存在する有機的な形状の影響も受けながら、より可塑的でソフトな家具のビジョン、アプローチ、解像度を取り入れるよう促しています。しかし、曲線の何がそんなに魅力的なののでしょうか？単純なことですが、安心感があり、快適で居心地がよく、動きのアイデアや奥行きのある効果を生み出し、母性的な形や風景や雰囲気や雰囲気を彷彿とさせるからです。そして、調和と甘美さ、和気あいあいとした雰囲気と分かち合いを思わせる一種の家庭内革命を引き起こし、インテリアデザイン界を再び席卷しているのです。

しかしそれには副作用もあります。視覚的な軽さは、拡大され、重厚で彫刻的なプロポーションに変わります。それは、パンデミックが私たちに遺した保護の必要性のせいなのでしょう。どのような答えを出すにせよ、多くの企業がこの方向に取り組んでいるのは事実なのです。

• **Arper (アルペール) Lepal (レパル) ホール 22 | スタンド C21 D12**

Arper (アルペール) は、Doshi Levien (ドーシ・レヴィエン) の Lepal (レパル) を発表します。このアームチェアは、彫刻のようなエッセンシャルな土台に支えられ、硬質でありながらゆったりとした外側の構造と、ソフトで居心地のよい内側の座面のバランスが調和しています。これは単にくつろぐための快適な場所ではなく、エネルギーとインスピレーションを生み出す静かな休息の力を再考するよう促すものです。快適性、人間工学、機能性、美学をひとつの製品に融合させ、彫刻的な外形とソフトな布張り座面のコントラストが、表情豊かで個性的な作品を生み出しています。

• **Cimento (チメント) / Spruzzato (スプルツァート) ホール 18 | スタンド F14**

Cimento (チメント) は、ソフトで有機的な形の遊びを中心にコレクションを展開しています。滑らかな表面とざらざらした表面のコントラスト、ストライプの仕上げ、異なる色のグラデーションによるニュアンスの可能性が、常にダイナミズムを保ちながら、美的・形式的なバランスを生み出すことに貢献しています。

Patricia Urquiola (パトリシア・ウルキオラ) の spruzzato (スプルツァート) コレクションは、チェア、スツール、コーヒーテーブル、サイドテーブル、ダイニングテーブルで構成され、有機的でプリミティブなフォルムは本物の一枚岩に似ており、柔らかなフォルムを強調するスプレー加工と陰影のある仕上げが特徴となっています。

• **ImperfettoLab (インペルフェットラブ) / Òrghen (オルゲン)**

ホール 22 | スタンド

Verter Turrone (ヴェルター・トゥローニ) がデザインしたファイバーグラス製のテーブル Òrghen (オルゲン) を出展。曲線的でクリーン、かつソリッドな幾何学形は、一見不可能なバランスを危うくし、そのサイズは、たとえスケールアウトしていても、思いがけない軽さを見せる幻想的なコンセプトとなっています。

•Lago(ラーゴ)/Altana(アルタナ) ホール 24 | スタンド E11 F06

ヴェネツィアのルーフトラスに着想を得たモジュール式ソファシステム、Altana(アルタナ)を出展します。このソファは軽く直線的で、視覚的に曲線的でソフトなクッションが特徴。フロアサポートのディテールが特徴的で、楕円形の断面が張地と45°で交差し、傾斜した輪郭を描きます。シートクッションと背もたれには、連続したボリュームの遊びがあります。

•Lema(レマ)/Omega(オメガ) ホール 11 | スタンド B15 C20

Federica Biasi(フェデリカ・ビアージ)によるラウンジチェア Omega(オメガ)を発表。そのデザインは、1950年代のスタイルの特徴にインスパイアされたもので、軽くパッドが施され、レザーと合成皮革で張られた成型シェルが特徴です。その形状は、エッジを際立たせる生成りの縫い目によって強調され、シートは、ラインの柔らかさと金属構造の堅固さを兼ね備えています。

•Poliform(ポリフォルム)/Ernest(アーネスト) ホール 09 | スタンド A05 A09 B05 C06

Jean-Marie Massaud(ジャン・マリー・マッソー)のデザインによる Ernest アーネストを発表。ゆったりとした、ソフトでしなやかなシルエットが特徴的なこのモジュラーソファは、心地よい座り心地をもたらします。

•Visionnaire(ヴィジオネア)/ Shibari(シバリ) ホール 09 | スタンド L11 M06

Visionnaire(ヴィジオネア)と Studiopepe(ストゥディオペーペ)は、柔らかで丸みを帯び卓越したフォルムを家具に昇華させました。Shibari(シバリ)は、結び目を象ったアームチェア。「結び目」は古代の象徴性を帯び、エジプトでは生命、不死、神の愛を表し、仏教では中国やチベットで無限の献身を表していました。また永遠と忠実も暗示し、よくできた結び目はほどけたり、開いたり、離れたりしないのです。Shibari(シバリ)のアームチェアは柔らかく包み込むような結び目であり、触れ合うことで幸福を得るためのものです。調和し絡み合うラインは、有機的な建築に生命を与え、エッジの幾何学的な形状は柔らかなボリュームへと変化し、角は日常生活を歓迎し和らげる曲線へと形を変え、色の濃淡は柔らかく、心を和ませます。

•De Castelli(デ・カステッリ)/Folio Round(フォリオ・ラウンド) ホール 24 | スタンド B01 B02

De Castelli(デ・カステッリ)もまた、Draw Studio(ドロー・スタジオ)がデザインした Folio Round(フォリオ・ラウンド)で、円形に焦点を当てています。ピュアで正確なボリュームは、厚い金属板でできた直交する天板の構成によって特徴付けられ、光と影の興味深い遊びを生み出す平行な平面に配置されています。シンプルでありながら大胆な存在感を放つフォリオ・ラウンドは、2枚の丸い DeDeep(デディープ)スチールプレートが DeErosion(デ・エロージョン)の真鍮製バックバンドを収納し、大きな天板を形作っています。

• **Acerbis(アチェルビス)/ Lokum(ロクム) ホール 22 | スタンド G15 H12**

Acerbis(アチェルビス)は、Sabine Marcelis サビーネ・マルセリスを起用し、物質、光、色を融合させたコーヒーテーブル Lokum(ロクム)を発表。ピュアなフォルムで、職人による吹きガラスで付加価値が加えられています。長方形と正方形、エッジのないもの、角が丸くカーブしたもの、3種類のトーンが揃います。

• **Desalto (デサルト)/ Roller(ローラー)ホール 09 | スタンド D10**

Francesco Rota(フランチェスコ・ロータ)による、座面を本質的なグラフィック要素に分解したデザイン Roller(ローラー)を発表します。アームチェア、オットマン、長椅子は、円形や楕円形、幾何学的、彫刻的、そして定義的な筒形から生まれ、密度の異なるポリウレタンを使用することで最高の座り心地を保證するよう考案されています。その形は、座る人を包み込むよう。メタルは美的観点からも技術的観点からもなくてはならないもので、丸いチューブの形をして、シートクッションの荷重を支える骨格の輪郭を描いています。

• **Kristalia(クリスタリア)/Dimora(ディモラ) ホール 22 | スタンド D25 E20**

Cristina Celestino(クリスティーナ・チェレスティーナ)による Dimora(ディモラ)を発表。2つの構造体がベッドを包み込み、柔らかな厳格さと堂々とした存在感を組み合わせながらフットボードを際立たせ、ベッドに独自の個性を与えています。

• **Antonio Lupi(アントニオ・ルピ)/ Cartesio(カルテシオ)**

ホール 22 | スタンド A19 A21

Antonio Lupi(アントニオ・ルピ)の洗面台付きインテグレートシステム Cartesio(カルテシオ)は、しなやかな個性を放ち、現代のニーズに適応する多彩なソリューションを提供します。カウンタートップの洗面ボウルは、その高い位置とエレガントなカーブを描く形状により、バスルームの中心的存在となり、際立ったデザイン要素を加えます。

• **Calia(カリア)/ I Sassi(イ・サッシ) ホール 03 | スタンド E15 F14**

Calia(カリア)は、Timothée Studio(ティモテ・スタジオ)がデザインした I Sassi(イ・サッシ)を提案します。ソフトで有機的なラインが特徴の“曲線的”スタイルのモジュールで構成されたコレクションです。メインモジュールは、2種類のサイドシートで構成され、会話やリラックスなど、リビングルームのあらゆるニーズを満たすことができます。

• **Potocco(ポットッコ)/Jade(ジェード) ホール 11 | スタンド L15 M12**

Hanne Willmann(ハンネ・ウィルマン)デザインによるアームチェアとスペシャルピースの Jade(ジェード)コレクションから、アームレスト付きの新作アームチェアをプレビュー展示します。総革張りで、丸いシートクッションと、背もたれとして機能する半円形のクッションで構成され、まるで包み込むような安心感のある巣のようです。

•Milla&Milli(ミラ&ミリ)/ Edge(エッジ) ホール 14 | スタンド C29

Alain Gilles(アラン・ジル)のデザインによるカプセルコレクション Edge(エッジ)を発表します。ダイナミックであると同時に彫刻的なコンセプトを持つ様々な製品に共通するのは、水平に配置された天板の柔らかなラインと、より厳格で建築的な印象を与える脚部や直立部の組み合わせです。オーク無垢材を使用し、熟練した職人の手で作られています。

•Tonelli Design(トネッリ・デザイン)/Split(スプリット) ホール 24 | スタンド L12

Tonelli Design(トネッリ・デザイン)は、Francesco Forcellini(フランチェスコ・フォルチェリーニ)による Split(スプリット)を発表します。垂直のカットが特徴的な鏡のシリーズで、2つの傾斜した鏡面が周囲の空間と互いを映し出し、ダイナミックな反射の遊びを生み出します。このコレクションは、鏡の向こうの空間に入り込むというアイデアから生まれました。鏡を2つの部分に分けるスリットは、オブジェをつなぎ合わせ、新たな視点を生み出します。

•Frigerio(フリジェリオ)/Poltroncina(ポルトロンチーナ) ホール 11 | スタンド C23 C25

Frigerio(フリジェリオ)は、伝統的なコックピット・シートを再解釈した、David Lopez Quincoces(デビッド・ロペス・キンコセス)のデザインによる Poltroncina(ポルトロンチーナ)を発表します。このシートは、通常の半円を超えたカーブラインによって背もたれ部分がほぼ全体を包み込むような形で、抱擁のアイデアと感覚を呼び起こします。非常にバランスの取れたプロポーションと軽快なシルエットが、この多用途で機能的な提案を特徴づけています。

【モノの単純な形】

曲線的の正反対というのも、それほど悪くありません。いや悪くないどころか、巷では記号、幾何学、素材、それらの形式的・色彩的価値、そしてそれらが空間との間に築く関係について語られています。「物事の単純な感覚」(ウォレス・スティーブンスの言葉)が空間を再構成し、価値を与える時、本質的で多彩なマジックが起こるのです

•Molteni&C(モルテーニ)/Logos(ロゴス) ホール 24 | スタンド A09 C06 C10

Vincent Van Duysen(ヴィンセント・ヴァン・ドゥイセン)がデザインした Logos(ロゴス)を発表。清潔さ、モジュール性、機能性、軽さが、この完全にフレキシブルなリビングシステムの主な特徴であり、そのデザインは、空間家具への新しいアプローチを導入。構成と美学におけるモジュール性を決定する垂直の仕切りの軽さが特徴です。

•Fantoni(ファントーニ)/Decumano(デクマーノ)ホール 22 | スタンド F15 C12

Giulio Iacchetti(ジュリオ・イアケッティ)と Matteo Ragni(マッテオ・ラーニ)がデザインしたテーブル D

ecumano(デクマーノ)を発表します。デザイナーは、シンプルな直交する光の梁という本質的な構造を選びました。この梁が天板を支え、組み合わせあって、ローマの都市のレイアウトを彷彿とさせる四角形を作り出します。最も象徴的なバージョンでは、上部が透明になっており、ソリューションのシンプルさを引き立てています。

•Fiam(フィアム)/Type(タイプ)ホール 09 | スタンド C09

洗練されたシンプルさの中に、常に革新性を追求してきた Patrick Norguet (パトリック・ノルゲ)とのコラボレーションが戻ってきました。デザインに対する彼の感情的で直感的なアプローチは、3つの異なるデザインの小型テーブルのコレクション Type(タイプ)に反映されています。ガラスと無垢材で作られた小さなテーブルは、形、機能性、先進性を兼ね備えており、重なり合うことで新たなグリフを形成しながら革新的な形式表現を伝え、使うたびに新しい形式言語が生まれるような表情豊かな組み合わせとなります。

•Kryptonite (クリプトナイト)/Klark(クラーク) ホール 14 |スタンド D39

Giulio Iacchetti(ジュリオ・イアケッティ)が提案するモジュール式書棚プロジェクト Klark(クラーク)。これは、板金がミシン目に沿って緩やかに曲がり、書棚のモジュールに変化する際の擬音であると同時に、スーパーマンの分身(クラーク・ケント)の名前でもあり、世界最強の男に対抗できる唯一の要素を想起させるブランド名へのオマージュです。このモジュラー・システムは、ベース、折りたたみプレート、コーナーロック用マグネットという3つのシンプルな構成要素に基づく、本質的なプロフィールが特徴です。インターロッキングシステムにより、壁を固定することなく組み立てることができ、シートを手作業で折り畳み、マグネットによりコーナーをロックして完成します。多用途でシンプルなデザインは、独立したエレメントとして考えられていますが、無限のモジュール化が可能です。

•Fantin(ファンティン)/Wave(ウェーブ) ホール 14 | スタンド E28

ruqa.perissinotto(ルガ・ペリッシノット)デザインによるライティングデスク Wave(ウェーブ)を提案。折りたたまれたシートメタルが特徴的で、機能性とクリーンなフォルムの実現は、曲線と放射線の正確な計算によって解決されています

•Lapalma(ラパルマ)/Hawi(ハウイ) ホール 24 | スタンド G09 H10

Lapalma(ラパルマ)と Mario Ferrarini(マリオ・フェラーニ)とのコラボレーションは続き、Hawi(ハウイ)チェアの進化版を披露します。本質的で時代を超越した美学を特徴とするこのチェアは、堅固な構造体と、それと連続しながらも軽量化された優美な背もたれとの対比によって、興味深いひねりを加えています。背もたれと座面は射出成型プラスチック製で、屋外でも屋内でも使用できます。すべての部品は簡単に分解でき、リサイクルが可能です。

•Atlas Concorde(アトラス・コンコルド)/Boost Color(ブースト・カラー) ホール 03 | スタンド C13 C15

Piero Lissoni(ピエロ・リッソーニ)によるカラーパレットのプロジェクト Boost Color(ブースト・カラー)を発表。彼は何よりもまず建築家であるため、色彩を空間との関係で想像し、場所によくなじみ、周囲のものが生き生きとするようなシンプルな中間色を好みます。表面は滑らかでソフト、ベルベットのような質感。Frog(フロッグ)と名付けられた3色のオリジナルテクスチャーは、そのソフトでしなやかなラインによって、自然からインスピレーションを得た有機的な形を思い起こさせます。

•Nikari Oy (ニカリ)/Archetyp(アルケタイプ) ホール 22 | スタンド E16 E18

Jasper Morrison(ジャスパー・モリソン)の新作 Archetyp(アルケタイプ)のロビーチェアとラウンジチェアを、バーチ、アッシュ、オールドオークで提案します。機能的でシンプル、そしてダイレクトなフォルムは、椅子のコンセプトを本質的なものへと落とし込み、繊細な洗練を感じさせると同時に、目にも馴染みます。

【装飾に流行り磨りなし】

装飾主義の魅力は衰える気配がありません。色彩、大胆な積極性、遊び心、パターンやテクスチャーのレイヤー、ダイナミックなフォルムへの旅。

今日の装飾は、より軽やかで成熟した、一種の快樂主義的エレガンスです。

慣習やある種の厳格さを超え、別のものに新たな熱意を見出すことは、近年の困難を経て自然に生まれた欲求なのでしょう。

こうして、この新たな魅力は、パターンで遊ぶこと、素材を組み合わせること、さらには重ねることが可能であることを教えてくれます。大切なのは、それを慎重に行うことです。そしてそのパターンの筆頭に、植物柄や花の装飾テーマが(再び)戻ってくることでしょう。

•Lithea(リテア)/ Marina(マリーナ)、Anemone(アネモネ) ホール 18 | スタンド B08

Elena Salmistraro(エレナ・サルミストラロ)のデザインによる Marina(マリーナ)コレクションを発表。抽象的なコンポジションを通して、複雑で不思議な海の深さを表現している。Anemone(アネモネ)

は、デザイナーの独創的なアルファベットで海底を表現したモジュール式の装飾パネルで、植物や軟体動物から簡略化されたボートの横顔までを表現している。

•Cedit(クレジット)/duetti compositivi(コンポジション・デュエット) ホール 24 | スタンド G02 G03)

異なる形、色、質感の対話の結果として、これまでにない生活のビジョンに生命を与える duetti compositivi(コンポジション・デュエット)シリーズを提案します。BRH+(Barbara Brondi & Marco Rainò)

(BRF+ バルバラ・ブロンディ&マルコ・ライノ)がセレクトし、創造的解釈を行ったコンポジション・デュエットは、各作者のオリジナル・デザインを強化し、予期せぬセラミックの組み合わせによって革新を生み出します。Franco Guerzoni & Zaven(フランコ・グエルツォーニ&ザヴェン), BRH+ & Formafantasma (BRH+ & フォルマファンタズマ), Matteo Nunziati & Federico Peri(マッテオ・ヌンツィアーティ&フェデリコ・ペリ), Cristina Celestino & Zanellato/Bortotto(クリスティーナ・チェレスティノー&ザネッラート/ボルットト)らの組み合わせによる最高の作品が展示されます。

•Villari(ヴィッラーリ)/Laguna(ラグーナ) ホール 13 |スタンド C09

シャンデリア、ミラー、花器で構成される Laguna(ラグーナ)コレクションを発表します。デザインは、Ciarmoli Queda Studio(シャルモリ・ケダ・ストゥディオ)、Debonademeo(デボナデメオ)、Giulio Gianturco(ジュリオ・ジヤントウルコ)、Ferruccio Laviani(フェルッチョ・ラヴィアーニ)、Marcantonio(マルカントニオ)、Fabio Novembre(ファビオ・ノヴェンブレ)、Emanuele Pangrazi(エマヌエーレ・パングラーツィ)、Li-Jen Shih(リージェン・シー)、Elena Trevisan(エレナ・トレヴィサン)、Elena Xausa(エレナ・クサウサ)ら。ヴェネチアのラグーンの魅力にインスパイアされたコレクションは、新たな表現への扉を開きます。細部までこだわり抜いたこのコレクションのシャンデリアは、堂々とした存在感を放ち、シルバーとエメラルドグリーンの色合いのムラーノガラスと磁器のモンステラの葉で構成されています。繊細で細やかなモンステラの葉は、巧みに成形され、光を捉え、拡散させる視覚効果を生み出しています。

•Opificio(オピフィーチョ)/Filigrana(フィリグラナ) ホール 13 |スタンド F07

伝統的なムラーノガラスの様々な工程を現代風アレンジしたファブリック「フィリグラナ」を発表。Zanellato Bortotto(ザネッラート・ボルットト)によるこのプロジェクトは、特にムリーヌ(ガラス棒に描かれた色彩のモチーフやイメージ)の幾何学的で規則的なパターンから始まり、職人技と高温が、点状の図形記号を和らげ、不規則でしなやかなパターンに変化させる。この無限の装飾パターン、不規則な形とテクスチャーの世界が、コレクションのインスピレーションとなっています。この予期せぬパターンが、クッション、カーテン、インテリア小物にダイナミズムを与える動的なテクスチャーとなり、生命を吹き込みます。

•Bosa(ボサ/Oasis(オアシス) ホール 22 |スタンド L18

Bosa(ボサ)は、「オアシス」を発表。多面的な才能を持つ Sara Ricciardi(サラ・リッチャルディ)は、ヤシの木、パピルス、蓮の花、楽園のような鳥たちが織りなす風景を想像し、その鮮やかな色彩と活力に満ちた様子を、陶器の花器やテーブルのテクスチャー、装飾、貴重なディテールで表現しました。

•Illulian(イルリアン)/Gem Rugs(ジェム・ラグ)ホール 15 |スタンド D18 D20

Alain Gilles(アラン・ジル)がデザインした Gem Rugs(ジェム・ラグ)コレクションは、宝石の美しさとそのランダムな組み合わせから着想を得ています。このプロジェクトのコンセプトは、クリスタルの典型

的なカットの鋭さをひき出すデザインを通して、様々な異なる形の石と出会ったことから生まれました。一方の石の丸みが他の石の角ばった部分を引き立て、またその逆も然りで、光を放つ一種の幾何学的な遊びとなっています。2つのシルエットが重なり合っているのは、生地の高さの違いによる光学的効果のおかげ。すべてのモデルで、半貴石の典型的な脈理が強調され、それぞれの宝石の特徴をユニークに解釈したニュアンスと光の反射が引き出されています。

•Wallpepper(ウォールペッパー)ホール 07 |スタンド C10

Wallpepper (ウォールペッパー)の新コレクションは、非常にフレキシブルで汎用性が高く、約 100 にも渡る新しいオリジナル・グラフィックで構成されています。自然、色彩、幾何学、建築、風景、空想、夢を装飾に変え、人の個性や場所の機能に適応するシナリオや雰囲気を実現することで日常的な環境を包み込む、特別なコレクションです。

•Wall&Deco(ウォール&デコ)/ WET System 2024(ウエットシステム 2024)ホール 22 |スタンド L21

Wall&Deco (ウォール&デコ)は、バスルーム、シャワー、スパなどのウェットルームの装飾も手がけています。WET System 2024 (ウエットシステム 2024)は水を全く通さず、黄変や家庭用洗剤への耐性にも優れています。

【インサイド・アウト】

今日、家具は決められた空間の枠にとらわれず、本来とは別の場所で使用されたり、別の新しい用途を果たす可能性が高まっています。アウトドア用家具は、もはやマイナーなデザインの産物ではありません。屋外空間は快適で機能的な(そして美しい)集合と団欒の場へと変貌を遂げ、「コンタミネーション(混入)」を合言葉としながら、ますますハイブリッド化する家具によって住まう、(再)征服されるべき空間となっています。

•Pratic(プラティック)/Carrera(カレーラ)

「私たちは屋外で生活するようになっています」。これが Pratic (プラティック)の信条であり、同社のパーゴラを通して、屋外スペースで自然な形で幸福を提供できる理想的なニューロ・アーキテクチャーの形を提示しています。バイオクライマティック・パーゴラ Carrera (カレーラ)は、太陽の自然な動きに合わせて、ブレードが交互に重なり合いながら上昇する、初の屋外用スクリーンです。固定ブレードと可動ブレードが2つの異なる奥行きで交互に配置され、閉じた天井に洗練された立体感を与えています。

ます。合図のジェスチャーを察知すると、可動式ブレードが上昇しスライドして、固定式ブレードの上

に完璧に重なります。太陽の角度や希望の光量に応じて、ブレードは右から左へ、またその逆に動きます。同社のウェザーセンサーと組み合わされたこのテクノロジーにより、日の出から日没まで、シェードの動きを太陽光に合わせて調整でき、屋内と同じように快適な屋外体験を実現します。

•Roda(ロダ)Teseo(テセオ)ホール 24 | スタンド C02 C04

Michele De Lucchi(ミケーレ・デ・ルッキ)の AMDL CIRCLE(AMDL サークル)シリーズのダイニングコレクション Teseo(テセオ)を発表します。クラフトマンシップと工業的効率性が完璧に融合されたこのコレクションは、ダイニングテーブルとチェアで構成され、チーク材をロープで連続的に縫い合わせるというテラーメードなディテールが特徴です。チェアのすべてのスラットに施された連続的なステッチは、このコレクションに独特のまとまりとサヴォアフェール(伝統的な匠の技)を与え、まるで屋内のリビングルームのためにデザインされたかのように見えます。

•Magis(マジス) / South(サウス) ホール 22 | スタンド D15 E14

厳格さが Konstantin Grcic(コンスタンチン・グルティッチ)の信条であるとするれば、Magis(マジス)から発表される彼の South(サウス)コレクションは、屋外での使用に特化したデザインでありながら、屋内での使用にも優れ、その信条を象徴していると言えます。素材はスチール製のチューブとロッドで、カラーバリエーションも用意されています。こだわりの素材と技術、創造的かつ実用的なノウハウで作られたこのコレクションは、アームチェア、ローアームチェア、ハイベンチ、ローベンチで構成されています。また、3種のテーブルと2種のコーヒーテーブルもあります。椅子のシート用織物マット、ラグ、バスケット、ひざ掛け毛布などは、すべて屋外の使用に適したファブリックで仕上げられています。

•Unopiù(ウノピウ)/DAVOS(ダヴォス) ホール 18 | スタンド A05

Matteo Nunziati(マッテオ・ヌンツィアーティ)がデザインした、無限の可能性を秘めたモジュール式ソファ DAVOS(ダヴォス)を発表。屋内と屋外、シームレスなデザインで、非常にソフトなクッション材と大きなクッションにより、自然なオープンスペースからリビングエリアまで、使用できます。グラフィートカラーの特殊アルミニウム構造により、シートとテーブルモジュールを組み合わせることができます。

。

•Ethimo(エティモ)/Boldini(ボルディーニ) ホール 22 | スタンド L22 L24

巨石建築からインスピレーションを得た、力強い個性と彫刻的な魂、そして丁寧な職人技を備えたコーヒーテーブル Boldini(ボルディーニ)を発表。リビングルーム向けでありながら、外の空間にも溶け込む。3種類の“ソフト”な形状の天板は大理石製で、素材の美しさと自然の脈を際立たせる光り輝くポリッシュ仕上げ。釉薬のかかったセラミック製の脚は、天板の色と光沢効果を呼応させ、デザイン全体にダイナミズムとまとまりを与えています。

•Talenti(タレンティ)/ Allure(アリュール) ホール 24 | スタンド M02 M04

Christophe Pillet クリストフ・ピレのデザインによるラウンジチェア Allure(アリュール)を発表。軽快な

印象を与えるシートは、様々なカラーバリエーション。アルミニウムの構造部は、エコロジカルで実用的な素材であり、無限の組み合わせと動きやすさを可能にします。構造体と張り地の組み合わせにもさまざまなバリエーションがあり、心地よい素材のコントラストを生み出しています。

•Musola(ムソラ)/ Brise(ブリーズ)ホール 01 |スタンド E09 E11

純粋なミニマリズムの哲学に忠実な Musola(ムソラ)は、流れるようなライン、時代を超越したデザイン、高貴で持続可能な素材で、際立つ作品を提案しています。テーブルとコーヒーテーブルのコレクション Brise(ブリーズ)は、エレガンスと機能性、軽さと安定性が特徴です。天板には、セラミックをガラスでラミネート加工したテクニカルセラミックを使用しています。耐久性と美しさを兼ね備えた革新的な素材です。

•Slide(スライド)/Colosseo(コロッセオ) ホール 18 |スタンド D 14

Alvaro Uribe(アルヴァロ・ウリベ)による Colosseo コロッセオを発表します。コロッセオの建築にインスピレーションを得たこの椅子のボディは、いくつものアーチで区切られ、軽快さを感じさせます。そのアーチの溝によって、この椅子は光や影と戯れ、室内でも屋外でも、あらゆる空間に視覚的なリズムを与えます。

•CPRN/Pedro(ペドロ) ホール 15 | スタンド H15 H19

この一年、CPRN は、1970 年代と 1980 年代にインスパイアされた新しいインドアとアウトドアの提案でコレクションを拡大してきました。その結果、すべての製品の自然な適応性を反映したスタイルで屋内と屋外の空間の連続性を生み出すことになりました。上質なマホガニーやイロコ材などの素材や、ナチュラルな色調のファブリックやレザーなど、新しい要素は自然からインスピレーションを得ています。

Pedro(ペドロ)は彫刻的なソファのコレクションで、木のエッセンスを取り入れた外側の構造が絶対的な主役です。マホガニー無垢材に光沢のあるニス塗装を施し、1970 年代のインスピレーションを取り入れながら、ソファを航海の世界に近づけています。

【ホーム・フィットネスマニア】

ホーム・フィットネスマニア？パンデミック以来、自宅でワークアウトする楽しさが再発見されていることは間違いありません。今日、このトレンドは、家具を含む多くの分野で流行しているウェルネス・プロジェクトの一環として、あらゆる場所に広がっているようです。機能性と丹念な美的研究を組み合わせたホームフィットネス・ソリューションを提供するブランドも少なくありません。

•Pent Fitness (ペント・フィットネス)/Irena(イレーナ) ホール 13 | スタンド D02

Pent Fitness(ペント・フィットネス)は、ブロンズ、レザー、天然木を絶妙に組み合わせたカーブ・トレッドミル Irena(イレーナ)を展示します。その革新的なデザインは、複数の筋肉に影響し、有酸素運動の全体的な効果を向上させます。電源を使用する必要がなく、作動音は静かです。ユーザーがペースとスピードをコントロールし、さまざまなフィットネス・レベルに適応させることができます。

•Fuoripista(フォーリピスタ)Fuoripista Bike(フォーリピスタ・バイク) ホール 18 | スタンド F06

Adriano Design(アドリアーノ・デザイン)のプロジェクト、Fuoripista Bike(フォーリピスタ・バイク)を提案します。このステーションナリーバイクは、コントラストを持たせたステッチで仕上げたエレガントなレザー製の脚を持つなど、インパクトある表現力を持っています。インドアトレーニングにおいて高いパフォーマンスを保証するマシンであると同時に、エクスクルーシブなデザインの家具でもあります。職人技を駆使して作られた Fuoripista Bike(フォーリピスタ・バイク)は、スマートでインタラクティブな魂と、特殊な技術と絶え間ない研究の成果であるハイパーテクノロジーを搭載しています。思い切っ
て遊び、毎日を新しいゲームに変えましょう。適切でないと思われる場合でも、あえてプレイする。ルールを破り、慣習を再解釈しましょう。

•RS Barcelona(RS バルセロナ) ホール 18 | スタンド C06

RSBarcelona(RS バルセロナ)は、デザイン、美学、そして楽しさのバランスに長けており、今回の見本市では、より多くの人々がゲームに参加できるようスペースを拡大し、より柔軟で包括的なものとなった新しいシャッフルボードトラックを発表します。

本件に関するお問い合わせ先: 山本幸 yuki@milanosalone.com

International press info: Marva Griffin-Patrizia Malfatti press@salonemilano.it